戦争なんてコリゴリ

石井志津子（二宮・72歳）

当時、船橋市本郷町（今の西船五丁目）に住んで居ました。夫は昭和十八年十一月十日に出征し子供と三人で暮らして居りました。

昭和二十年二月二十五日昼間大雪でした。

空襲になり防空壕には雪なので入らず、押入れの上段に布団を沢山入れて下に子供と入って居ました。高台の方の或る家であかりがもれていたので焼夷弾が落とされ、翌日になってもまだ煉炭やら何やら燃えていたので村中の人達、子供は老人に見てもらいバケツリレーで消しに行きました。

その夜二月二十六日夜空襲警報B29一機飛んできました。庭中、雪なので子供は防空豪に入れず布団に寝かせたまま雨戸一枚だけ開けてガラス戸は寄せて廊下で看視していました。我が家の屋根の上を通り過ぎたのでホッとした瞬間、空より田圃に爆弾が落ちてくるや火が高く上り驚いて、死ぬ時は子供と一緒と思い夢中で布団にもぐり布団をかぶると同時に、物すごい爆風二回なり。そっと顔を出して見ると、あたり一面ガラスがコッパミヂンに布団にもどこにもつきささっていてどうする事も出来ませんでした。雨戸は庭の雪の上にとばされ玄関の障子は鍵が掛かったままで外されガラスはメチャメチャでした。

近くの変電所であかりがもれていたとのことでした。まとが外れて田圃に落ちてよかったのです。怪我もなく無事でしたが本当に生きた心地はありませんでした。誰一人として本郷町に爆弾や焼夷弾を落とされるとは思っていませんでした。それだのに一番恐ろしい目に会ってしまいました。

五月三日市役所より、出征中の夫の戦死の知らせがありました。マリアナ島付近にて玉砕とのことでした。五月十二日に英霊むかえに船橋駅前に行きました。六月一日市葬でした。船橋中学校でやりました。我家の市葬は最後でした。後の戦死者の遺骨はそっと帰ってきました。私は市葬してもらっただけよかったと思いました。

陸軍大臣の代理の人が焼香に来て下さいましたので爆弾の落とされた話をしましたら、大変に驚いて「よく早く布団にもぐりましたね。あと一秒おそかったら貴方は爆風にとばされて子供さんはガラスの破片で命はありませんでしたよ。よく機敏にやってくれましたね。」とほめて下さいました。

戦争は楽しい家庭をめちゃめちゃにし死んだ人は二度と帰ってきません。夫は玉砕で本当に可愛想です。遺骨一つありません。二度と戦争なんてしないで下さい。

どうか平和でありますようお願いします。